

日本で最も美しい村連合 & 都市の農地と見沼田んぼ

ウィキペディアより 2005年(平成17年)10月4日、北海道美瑛町長の呼びかけにより任意団体として設立。1982年に64の村で始まった「フランスの最も美しい村」連合に範をとり活動をしており、フランスと同様に加盟した後、加盟自治体が「日本で最も美しい村」として妥当かどうかを定期的(5年毎)に審査、基準を満たさない場合には最終的に資格を剥奪することもありうる。

現在、「日本で最も美しい村連合」「フランスの最も美しい村」、ベルギーのワロン地域の「ワロン地域の最も美しい村(フランス語版)」やイタリアの「イタリアの最も美しい村」、カナダ・ケベック州の「ケベックの最も美しい村(フランス語版)」による「世界で最も美しい村連合」も設立されている。

※

「日本で最も美しい村連合」には、2019年6月28日現在で、63の自治体・地域が加盟している。連合の設けている地域ブロックは、北海道・東北 関東・中部・北陸 近畿・中国・四国 九州・沖縄になっている。

関東・中部・北陸地域には17の村・地域がある。そのなかで原村、南木曾町、木曾町、松崎町には、現地を訪れたことがあるが、いい意味で鄙びた山間地域で夏の風景は特に田畑や山道に野草や園芸の草花が咲きほこり美しい。

栃木県那珂川町小砂、群馬県中之条町伊参、群馬県中之条町六合、

群馬県昭和村、山梨県早川町、長野県伊那市高遠町、



長野県原村、長野県中川村、長野県大鹿村、



長野県南木曾町、長野県木曾町、



長野県高山村、長野県小川村、岐阜県下呂市馬瀬(まぜ)、岐阜県東白川村、



静岡県松崎町、静岡県川根本町

こうした活動がなされていることを知ったのは、2015年12月26日の朝日新聞の記事を見てです。

※

一方都市の中にある農地の位置付けが「宅地化すべき土地」から都市に「あるべきもの」へと変わったとのことです。
新聞の記事では、「2022年問題」でバブル末期、条件を満たせば相続税納付が猶予されることになった「生産緑地」の指定がまもなく切れることにより、「都市農地が不動産市場に流入すれば地価が大暴落するのではないか」と。都市農業振興基本法や生産緑地法改正で指定の10年更新を可能に、などにより営農を続ける農家が多く、そんな事態は回避されるのでは、と。開発の時代は終わったと言えるのではないのでしょうか。

「都市の中の農地の効用」

食料供給、景観と潤い、農業学習、環境保全、ヒートアイランド対策、災害時の避難場所、火災時の緩衝地帯などのメリットがあります。朝日新聞より抜粋

※

自宅の近くに1260haある緑地があり「見沼たんぼ」と呼ばれています。
ここは、田畑や苗木畑、河川に用水路、斜面林、そして谷地などがある地域です。その周辺には桜回廊があり総延長20kmを超え、桜の下を散歩できる日本一の桜回廊があります。さらに公園などの桜も含めると5000本以上の桜と農の風景を楽しむことができる地域です。

いよいよ桜の季節がもうすぐです。

見沼たんぼの風景

